

KANAN Terrace Project

プロジェクト始動のご案内 詳細版

巨岩と、語り合う。
自分に、還る。

長寿と子宝の島・徳之島の北の端、金見。
悠久の時を見守ってきた巨岩とともに、
日本のこれからのヒントを探すプロジェクト。

> 「愛する島で、自分に還る。」
>
> これが、このプロジェクトのキーコンセプトです。「金見集落を結び、その文化を未来へ繋ぐ」ために、このプロジェクトと、金見集落の既存の取り組みを一体で育てる、面の取り組みです。

CONTENTS

目次

P.2〜7	プロジェクト：巨岩、場所、ヴィラ、客室、改修計画、外構
P.8〜9	体験と活用：ウェルビーイング、食、離島ラグジュアリーツアー、土地
P.10〜11	事業：想定する利用者、強みと課題、事業の進め方、市場の動き
P.12	金見集落：歴史と暮らし、奄美トレイル、集落と共に歩む
P.13〜14	徳之島：島のあらまし、長寿と子宝、自然、食、闘牛
P.15	お問い合わせ、出典・写真の権利表示

本資料は、公式サイト（https://kanan-terrace.com）の内容を、紙面向けに要約した詳細版です。宿泊のご予約・販売は行っていません。内容は2026年時点の構想で、今後変更となる場合があります。

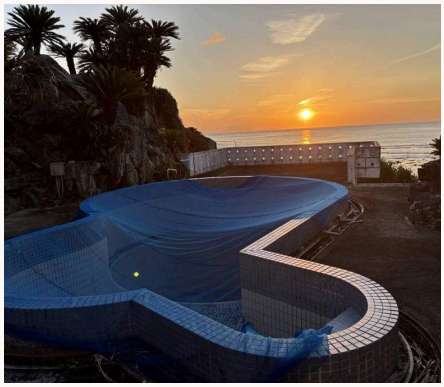
SYMBOL ROCK

この巨岩が、このヴィラのシンボルになる。

敷地に立つ花崗岩の巨岩は、およそ6千万年前に地下深くで生まれ、長い時をかけて地表へ押し上げられました。建物は岩と一体となって建ち、頂にはソテツが茂ります。朝は日の光に染まり、夕方は長い影を落とし、夜は星の下で黙っている。答えのかわりに静けさをくれるこの岩と、急がず、話しかけるように語り合う。そんな時間を描きます。



頂にソテツが茂る、シンボルロック



朝日に染まる巨岩とプール（現況）



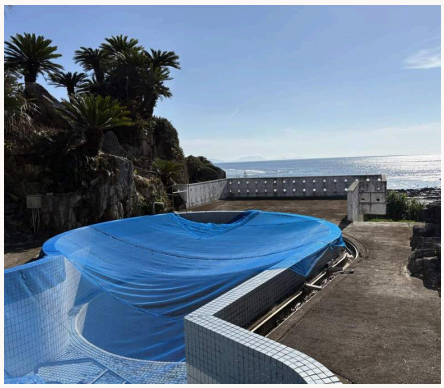
建物の内側に続く岩肌（現況）

岩と過ごす、滞在のかたち。

巨岩は、眺めるだけの存在ではありません。
向き合う場として、滞在の時間に迎え入れます。



巨岩を取り込んだサウナ室（イメージ・夜）



海を望むプールと巨岩（現況・改修前）



海を望むプールテラス（イメージ）

巨岩を取り込んだサウナ

岩肌を室内に取り込んだサウナ室を構想しています。夜、灯りに浮かび上がる岩は、悠久の時を経て、変わらずそこにあります。答えのかわりに静けさをくれる巨岩と向き合い、星空のもとで自分に還ります。

岩を望むプールテラス

眼前に海が広がり、悠久の時を経た巨岩を望むプールテラスです。波の音と、岩の静けさのなかで、自分に還ります。

画像はイメージです。設計は、まだ確定していません。

プロジェクトのキーコンセプト

「愛する島で、自分に還る。」——「金見集落を結び、その文化を未来へ繋ぐ」ために、このプロジェクトと、金見集落の既存の取り組みを一体で育てる、面の取り組みです。

KANAMI / LOCATION

金見集落。世界遺産の森を背に、海岸に面する立地。

金見（かなみ）集落は、徳之島の東北端に位置します。トンバラ岩や、その先の請島（うけじま）・与路島（よろじま）を間近に望む景勝地で、方言では「カナン」と呼ばれ、「眺めの良い場所」という意味だと伝えられています。

史跡	豊受神社、鍛冶神を祀る聖地、水神を祀る「フーゴゥ」、ノロの祭場
街並み	明治初期の字絵図のまま残る、古風な集落
名所	金見崎展望所、ソテツトンネル、金見海水浴場、トゥッカ



展望所から望む金見集落と海岸



白い砂浜とサンゴ礁、岬の灯台



金見の白砂とサンゴ礁の海

立地

東向きの海岸立地

金見海水浴場の正面にあり、集落内でも希少な海岸立地です。

国立公園・自然環境

奄美群島国立公園 第3種特別地域。世界自然遺産と接続する自然環境の中にあります。

都市計画区域外・空港に近い

柔軟な施設づくりが可能。徳之島子宝空港から車で約24分。



金見集落の全景と2つの物件の位置（右側が海）。位置は目安。国土地理院の地理院タイルを使用。

プロジェクトの2つの物件

① ヴィラ物件　県道沿い。元ダイビングショップ兼宿泊施設の建物と、巨岩のある敷地。

② 土地物件　集落の北東、海水浴場に隣接する海沿いの土地。

物件の位置は目安で、区画の形・広さを示すものではありません。

VIEW / SITE

ふたつの海を、ひとつの窓から。

ヴィラの室内からは、朝日が昇る太平洋と、静かに広がる東シナ海を見渡すことができます。そびえる巨岩と、2つの海。この場所でしか出会えない景色を、ヴィラの時間の真ん中に置きます。



中庭から望む海（現況）左が東シナ海、右が太平洋



2階から望む金見海岸（現況）

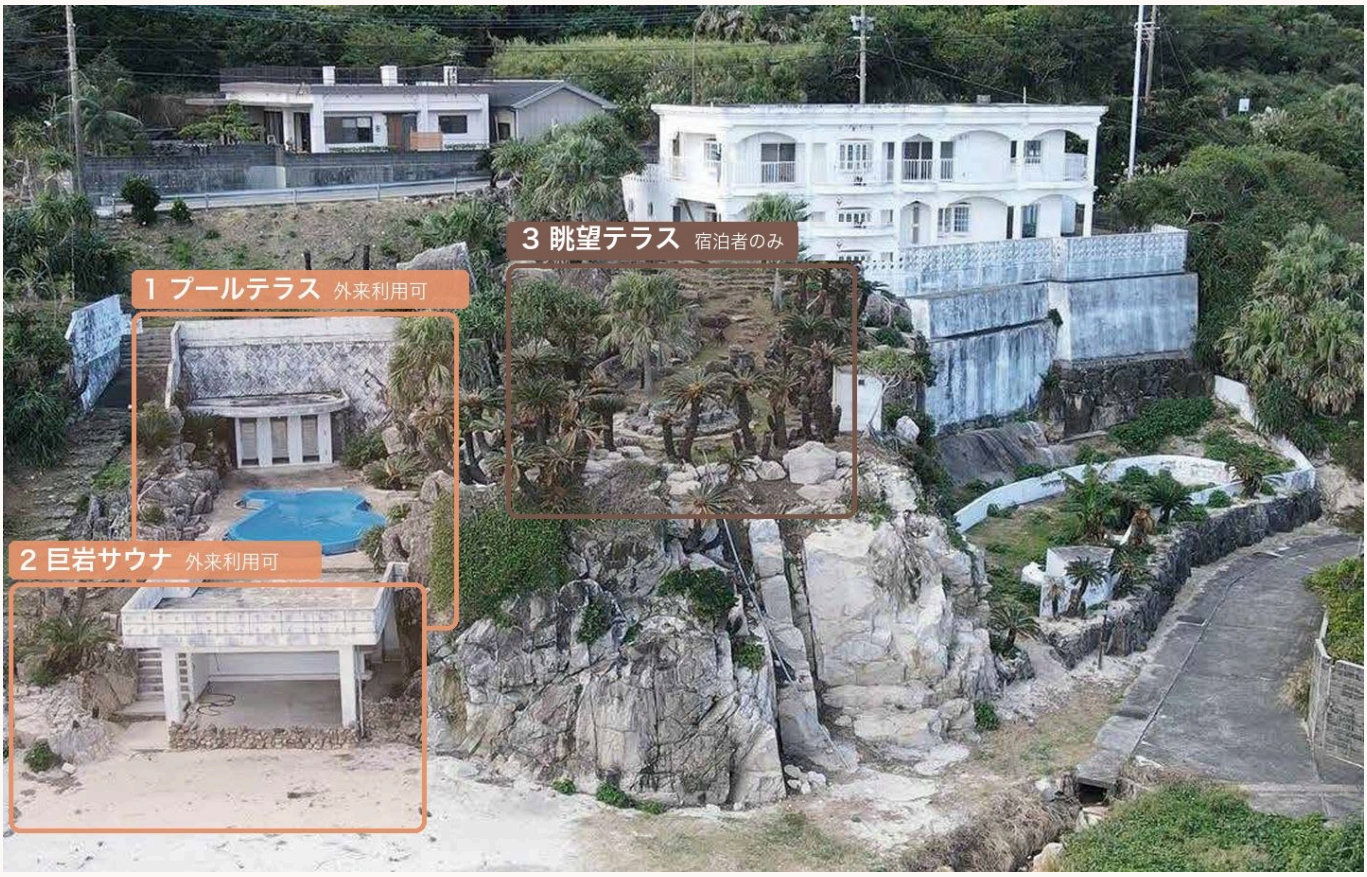


庭から海岸へ続く眺め（現況）

SITE

ヴィラ敷地の見どころ

敷地は約1,854㎡。県道側から海岸へと下る段になった敷地で、1本の県道と2本の町道に接します。



敷地の全体像（空撮・過去の撮影）。1 プールテラスと2 巨岩サウナは、来訪者も利用できる構想。3 眺望テラス（巨岩のうえ）は、宿泊者のみ。

岩風呂エリア

ヴィラから3方向に視界が開ける、最も眺めの良い場所。

プールエリア

ダイビングプールとシャワー、下層のビーチバーのゾーン。

崖下エリア

道路から一段上がった、フラットなスペース。

写真は現況（改修前）です。整備の範囲は、費用対効果を検証しながら検討します。

VILLA

巨岩と一体化した、唯一無二のヴィラ。

RC造2階建、延床335㎡。敷地内の花崗岩の巨岩と一体となった建物を、少人数滞在のヴィラとして生まれ変わらせます。



ヴィラ外観（イメージ）



集落内から見たイメージ（昼）



集落と海を見下ろすイメージ（昼）

画像はイメージです。設計は、まだ確定していません。

所在地	鹿児島県大島郡徳之島町金見
敷地面積	1,854.07㎡（登記簿）
延床面積	335.44㎡（登記簿）
構造	RC造・地上2階建（平成4年建築）
客室（予定）	全4室・最大定員12名（想定）

客室（予定）

スイート　1階

約100㎡／1室／最大4名。リビング・ダイニング・キッチンを備えた広い一室。レストランとしても使える空間を想定。

メゾネット セミスイート

1〜2階／1室／最大4名。階段でつなぐ2層の客室。2階にワークスペース。

スタンダード　2階

約35㎡前後／2室／各最大2名。海に面した客室。部屋をつなげて使うこともできます。

客室構成・仕様・図面は、設計確定前の想定です（構想段階）。

既存の建物を活かし、島のアイコンになるテラスを。

母屋の壁式RC造は、構造に配慮しながら間取りを変更します。既存の構築物の一部や装飾の庇などは撤去し、約45㎡を増築して、海に向かって広がる大きなプライベートテラスを設けます。金見展望所や集落からも特徴的に見えるこのテラスが、ヴィラのアイコンになります。

増築　約45㎡

1階の両端に約16.1㎡と約29.0㎡。左端は客室（メゾネット）の寝室、右端は玄関・水まわりの拡張。

プライベートテラス

1階の客室の前面に、海に向かって広がる大きなテラス。

構造に配慮した間取り変更

壁の位置を考えながら、客室の広さと使いやすさを高めます。

ROOM IMAGES

客室と、完成イメージ



スイート　寝室



スイート　夕方のテラス



メゾネット　キッチン



メゾネット　1階の寝室



スタンダード②　室内



スタンダード②　キッチンまわり

客室の画像は、イメージです。家具や仕上げは、実際とは異なる場合があります。

完成イメージ

巨岩を取り込んだサウナ、集落と海を見下ろすヴィラ、世界自然遺産の森と金見海岸に抱かれた滞在風景のイメージです。



展望所方向から見たイメージ（昼）。



海水浴場側から見たイメージ（昼）。

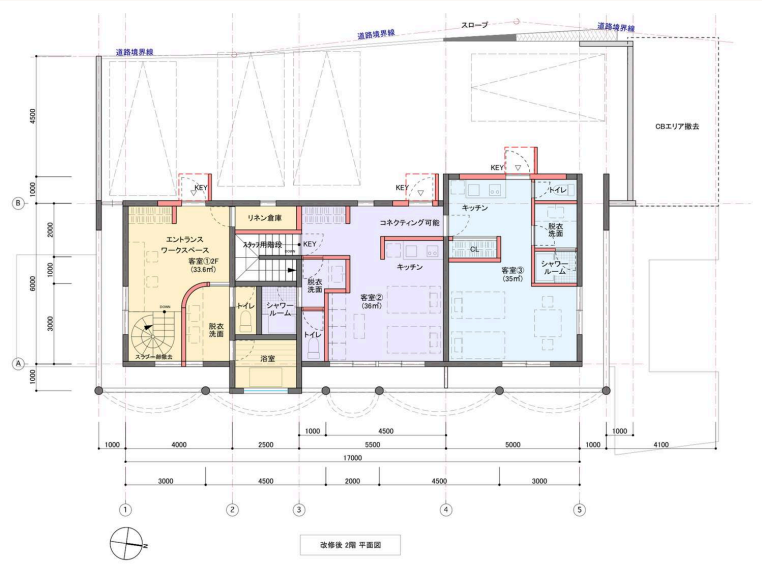
画像はイメージです。設計は確定しておらず、実際の仕上がりとは異なる場合があります。

PLAN / EXTERIOR

平面計画（案）と、外構のイメージ



1階平面図（案）：スイート、メゾネット（1階）、プライベートテラス。増築部は左端約16.1㎡、右端約29.0㎡。



2階平面図（案）：スタンダード2室、メゾネット（2階）。

設計確定前の計画案です（2026年7月時点）。広さや間取りは、今後の設計で変わる場合があります。

外構のイメージ

外構は、来訪者も利用できるプールテラスと巨岩サウナのエリア、宿泊者だけが利用できる眺望テラスのエリア、ヴィラのカフェやレストランで出すフルーツを育てるガーデンのエリアに分け、外部事業者の導入も含めて柔軟に活用することを検討しています。



眺望テラス（イメージ）



岩風呂（現況）

宿泊者専用の居場所

眺望テラスは、巨岩のうえの、宿泊者専用の居場所として設けることを想定しています。

外構の画像のうち、岩風呂（現況）以外は、構想段階のイメージです。

WELLBEING

神が宿る聖地で、心身を整える。

心身が整う、新しい自分と「第3の故郷」が見つかる場所。この島の暮らしの知恵に学び、ウェルビーイングを軸に滞在の体験を組み立てます。

身体を整える

- スポーツの島で、さまざまなアクティビティを体験する
- 長寿と子宝の島の風土と食事で、身体の中から整える

心を整える

- 俗界を離れ、静かで清浄な土地で心を整える
- 「結（ゆい）」の精神が息づく、カナンの島人と交流し、故郷を見つける



浜辺のヨガ



SUP



ダイビング

写真は、体験のイメージです。

GASTRONOMY

徳之島ガストロノミーツーリズムの、拠点になるヴィラ。

食と食文化を味わい、学び、人と出会う旅の拠点として、ヴィラを活用することを構想しています。



島の食材を使った料理



集落の人と料理をする



食卓を囲む

島の食材

黒糖、島の農産物、海の幸、集落のジビエ。庭では、レストランで使うフルーツも育てます。

食の舞台

1階のスイートは、レストランとしても使える空間に。サウナ、眺望テラス、プールテラス、ジビエカフェ「とうぐら」を、一日の流れでつなぎます。

シェフの滞在

料理人が金見に滞在し、島の食材で新しい料理を考え、集落の人と料理教室を開く。そんな滞在を構想しています。

ガストロノミーの拠点としての活用は、構想段階です。

ISLAND LUXURY

離島ラグジュアリーツアーの、拠点として。

上質な体験を求める方に、この島でしか出会えない特別な体験を提供する場として活用することを構想しています。北海道、沖縄に次ぐ「第三極の離島」の実践の場をめざします。

1棟貸しという使い方

企業や団体が、期間を限ってヴィラ全体を貸し切る。幹部研修やチームビルディングの場として、あるいは、著名なレストランやシェフが大切なお客様をもてなす場として、1棟を使う。さまざまな要望に応えられる施設をめざします。

島の文化に、深くふれる

集落の人との食と交流、闘牛、史跡めぐり、世界自然遺産のガイドツアー、SUP・カヤック。島には総合病院もあり、長期の滞在でも安心です。

離島ラグジュアリーツアーの拠点としての活用は、構想段階です。

LAND

土地物件「カナンのロビー」構想

金見海水浴場に面した、集落内の土地（敷地面積 約996㎡、古家解体・整地済み）。ヴィラの滞在に付加価値を加え、集落に利益と仕事を生み出す、住民・滞在者・来訪者の交流の場とします。



土地と金見海岸（上空から・現況）



整地済みの土地（上空から・現況）

車の入り方

集落内の道は狭いため、来訪者にはソテツトンネルの駐車場をご案内し、車の流入を抑えます。

ZONE 01　管理棟

事務所、カフェ・物販、トイレ、コインシャワー、コインランドリー。最小限の仮設的な建物を想定。

ZONE 02　オープンパーク

住民と来訪者の交流の広場。マルシェ、キッチンカー、キャンプ、撮影などを検討。お試し開業の場にも。

ZONE 03　休憩・遊びの場

休憩スペースや遊具など、海遊びの前後に過ごせる場所。



マルシェ



キャンプ



ウェディング・撮影

上の写真は他地域の事例によるイメージで、金見での完成予定ではありません。土地の活用は現時点の構想で、住民の皆さまとの対話を重ねながら、具体的な内容を決めていきます。

TARGET

想定する利用者

MAIN　余裕のある国内旅行者

30〜50代。長期滞在でワーケーションをしながら、島の静かな暮らしとアクティビティを楽しむ方。人に知られた観光地より、親密な隠れ家を好む層。まず国内の旅行者を獲得し、リピーターや紹介につなげます。

SUB 01　インバウンド旅行者

訪日客の少ない、観光地化されていない日本を旅したい外国人旅行者。

SUB 02　帰省客・Uターン層

徳之島出身者とその子どもたちの帰省、ルーツに触れる旅。島の人に会いに来る方。

ツアー等の期間以外は、一般の宿泊も受け入れる想定です。集落の魅力とコンセプトを理解し、尊重してくださる方を中心に想定しています。

ANALYSIS

強みと機会、向き合う課題

強み

- 世界自然遺産登録、国立公園内
- 奄美トレイル全線開通
- 手つかずの自然と絶景
- 史跡と古い街並み、温かな集落の人々

機会

- 陸・海アクティビティの知名度の高まり
- インバウンド・旅行消費の増加
- 日本の原風景、隠れ家的な小規模リゾートへのニーズ

向き合う課題

- 交通アクセス、観光客が少ない
- 空き家・空き地が多い
- 道が狭い、生活利便施設が少ない

方針

- 自然と街並みを活かした、小規模なハイエンドの滞在
- 地域交流でリピーターを獲得
- 空き家・空き地を活かし、移住者を呼ぶ
- 集落の雇用と、経済の循環をつくる

台風などの自然災害、感染症、人手不足、人口減少の速さを、事業上のリスクとして認識し、柔軟に対応できる計画を組みます。

BENEFIT

関わる5者に、それぞれの価値を。

協業パートナー企業

地域連携を「実コンテンツ」にできる、離島での実証フィールド。

KANAN Terrace Project

既存の取り組みや事業者を活用し、立ち上げのリスクを抑えます。

カナンあまちゃんクラブ

ヴィラの稼働による運営規模の拡大と、雇用・事業の拡大。

地元自治体

協業しながら事業を進め、協業案件の創出と、島北部の過疎対策に取り組みます。

旅行者

「母浜回帰」に直結する、泊まらなければ味わえない体験。

集落には「消滅集落」の危機があります。このプロジェクトは、社会課題の解決を実際の事業として実装する取り組みです。

SCHEME

事業の進め方

STEP 01　構想・受け入れ基盤（進行中）

ヴィラ物件と土地を確保し、改修計画を策定中。

STEP 02　現地視察・意見交換（ご案内中）

パートナー候補・金融機関の皆さまに、現地をご覧いただいています。

STEP 03　協業・資金スキームの具体化

運営会社と保有会社を分け、事業の黒字を集落に還す仕組みを設計します。

地元自治体とも協業しながら、住民の皆さま、そして、金見で続けられてきた取り組み（カナンあまちゃんクラブ、金見荘、とうぐらなど）と協業して進めます。新しく事業をつくるというより、すでにあるものを活かし、つなぎ、育てていく考え方です。運営会社（宿泊・食・アクティビティ）と、保有会社（ヴィラ・土地）を分ける構成を想定しています。詳細は、お問い合わせの方に資料でご説明します。

AREAS

協業を検討している4つの領域

飲食店との送客連携

提携名店と、KANAN Terrace を結ぶ相互の紹介の仕組み。

食の体験価値

徳之島ガストロノミーツーリズムの拠点として、シェフの滞在、島の食材を使った食体験、レシピの商品化を検討。

調査・研究

離島・少人数・高付加価値の滞在に関する実証とデータの蓄積。

地域連携

集落・自治体と進める、社会課題解決型の取り組み。

いずれも現時点のたたき台です。現地視察と意見交換を経て、ご一緒に具体化します。

MARKET

追い風と、まだ手つかずの余白。

島を訪れる人が増えていること、そして、奄美・徳之島が国内外の旅行者に、まだ十分に知られていないことが、公的な統計から見えます。

約3倍

徳之島を訪れる人のうち、航空路は海路の約3倍（2023年）。

4〜6割増

関東・関西からの来訪者は、2011年と比べて4〜6割増。

約9割

奄美群島を再び訪れたい人、人に勧めたい人は、ともに約9割（2022年度）。

0.8%

奄美群島の延べ宿泊者に占める外国人の割合（2019年）。全国は19.4%で、伸びしろが大きい地域。

小さな宿が増えています

奄美群島の宿泊施設は、2018年度の329軒から2022年度は435軒に。収容人員はほぼ横ばいで、少人数の宿が増えています。

出典：観光庁、日本政府観光局（JNTO）、鹿児島県観光統計、奄美群島島づくりプラン（2024年3月公表）をもとに、KANAN Terrace 企画チームが整理（2023〜2024年時点）。事業計画上の収益見込みではありません。事業の収支・資金計画・出資の構成などは、面談の中で、資料を用いて個別にご説明します。

VILLAGE

金見（かなみ）集落。明治の初めの面影を、今に残す。

徳之島の東北端、海と森に抱かれた集落です。トンバラ岩や請島（うけじま）・与路島（よろじま）を間近に望み、晴れた日には奄美大島の島影も見えます。31世帯・62人（2026年10月1日、徳之島町の推計人口）の小さな集落で、道路を広げた部分を除き、明治の初めに作られた字絵図のままに残っています。

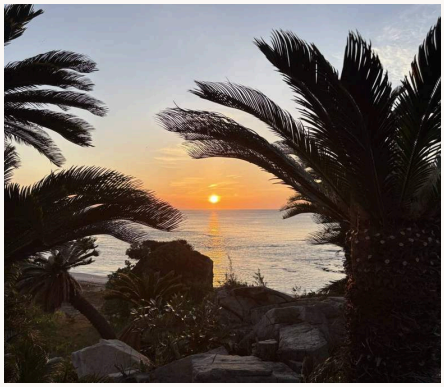
空港から	車で約24分（16.2km）
港から	亀徳港から約35分（22.9km）
国立公園	奄美群島国立公園 第3種特別地域
世界自然遺産	登録区域まで、直線で約2.5km

祈りの場が点在する土地

豊受神社（鍛冶神を祀る聖地）、ティランメェ（寺前）、フーゴゥ（水神を祀る場所）、トネ・ミーヤ（ノロの祭場）。



金見崎から望む、金見の海と集落



ソテツ越しに昇る朝日



巨岩の上部にある庭園。石段とソテツ

集落は、住民の暮らしの場です。撮影や散策のときは、静かに、私有地に入らないでください。

奄美トレイルが通る、集落の道。

奄美トレイルは、奄美群島の８つの島をつなぐ長距離の自然歩道（約550km）。徳之島の最北の「金見・手々コース」（8.3km）は、集落の路地を抜け、ガジュマルの木陰を過ぎて、海岸へ続きます。歩くときは、静かに、私有地には入らず、動植物を採らず、ハブに注意してください。

集落と共に歩む。カナンあまちゃんクラブ

「母浜回帰、カナンネイチャー。」を掲げ、2019年春、住民が立ち上げた団体です。体験エコツアー、SUP・カヤックのガイド、ジビエカフェ「とうぐら」の運営を行い、来訪者の受け入れの中心を担っています。集落には、住民運営の宿「金見荘」、飲食店、菓子製造もあります。KANAN Terrace は、この受け入れ基盤と連携します。

PLACE A　住民と来訪者が交わる場所

住民の憩いの場、来訪者が集落を知る場所に。使い方は住民との対話を重ねて考えます。

PLACE B　泊まり、巡る拠点

日帰りだった来訪者が1泊以上して集落を巡る拠点に。滞在中の消費が集落に還ります。

FOR VILLAGE　収益を、集落へ

事業の収益の一部を、集落の整備や活動に活かす仕組みをつくります。

訪れる際のお願い：集落内の道は狭いため、駐車は金見崎ソテツトンネルの駐車場をご利用ください。北部は事前予約制のデマンドバス（最寄りは「金見入口」）です。参考：徳之島町の公開情報、鹿児島県「奄美トレイル」。

TOKUNOSHIMA

徳之島。鹿児島の南、奄美と沖縄のあいだに。

長寿と子宝の島。2021年に世界自然遺産に登録された海と森に抱かれ、「結（ゆい）」の精神と「子は宝」の心が、いまも暮らしの中に息づいています。

位置	鹿児島市の南南西約468km
面積	約248㎢（国内で10番目に大きい島）
最高峰	井之川岳（標高645m）
人口	約20,300人（3町の合計）
徳之島町	9,087人（2026年10月1日）
天城町	5,307人（2026年10月1日）
伊仙町	5,917人（2026年6月末）



徳之島の位置と、空路・海路

徳之島への行き方

飛行機

羽田〜鹿児島 約120分。鹿児島から約65〜80分、奄美大島から約30〜35分。

フェリー

鹿児島から亀徳港まで約14〜15時間、沖縄からは約9.5時間。

島内の移動

車が中心。北部はデマンドバス（事前予約制）。レンタカーは要予約。

所要時間・便数は2023〜2024年時点。ご利用の際は、各社の最新情報をご確認ください。

LONGEVITY & CHILDREN

長寿と、子宝の島。

少子高齢化は、日本が向き合う最大の社会課題のひとつです。その中で徳之島は、出生率が全国トップクラスで、長寿の島としても知られます。土台は、支え合う「結」の精神と、「子は宝」の心です。

子宝の島

合計特殊出生率（2018〜2022年）全国の市区町村で、1位 徳之島町 2.25、2位 天城町 2.24。伊仙町は2008〜2012年に全国1位（2.81）。

長寿の島

ギネス世界記録の世界最高齢、116歳の本郷かまとさん（徳之島出身）。人と交わり、よく動く暮らしが、元気な長寿を支えていると言われます。

結（ゆい）の精神

田植えも、家づくりも、子育ても、みんなで助け合う。子どもの誕生、入学、成人を、集落の人もそろって祝う。

出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」、鹿児島県・伊仙町の資料。全国平均は、2008〜2012年が1.38。数値は掲載時点のものです。

この島に、日本のこれからのヒントが隠れている。

子どもをみんなで育てる「子は宝」の心。仕事も祝い事も困りごとも助け合う、結の力。畑仕事や島唄、闘牛、行事で体を動かし、人と交わる、元気な長寿につながる暮らし。少子高齢化の時代に、日本がこれから進む方向を考える大きなヒントが、徳之島の暮らしの中にあると考えています。

NATURE / FOOD / TOGYU

世界自然遺産の島の、自然と食、そして闘牛。

希少な生き物が育まれていることが評価され、徳之島は2021年7月に世界自然遺産に登録されました。アマミノクロウサギは、世界で奄美大島と徳之島の2島にだけ生息する国の特別天然記念物です。



天城岳の森　撮影：Asset utilitist（CC0）



アマミノクロウサギ　撮影：James Eaton（CC0）。徳之島で撮影されたものとは限りません



トライアスロンIN徳之島のゲート（2022年）撮影：CyberOyaji（CC BY-SA 4.0）

ISLAND FOOD

長寿の島の、食卓をのぞく。

長命草（ボタンボウフウ）

海岸の崖や岩場に育つ多年草。南西諸島では「ひと株食べると、ひと日長生きする」という言い伝えから、長命草と呼ばれてきました。若い葉は、てんぷらやお茶などにして食べられています。

黒糖・黒糖焼酎・シークニン

島のサトウキビから作る黒糖。奄美群島だけで造られる黒糖焼酎。古くから自生する野生の島みかん「シークニン」（8〜10月ごろ収穫）。

鹿児島大学の研究（2023年）は、奄美群島の住民約5,000人を約13年追跡し、黒糖を食べる頻度とがんの発症に関連がみられたと報告しています。黒糖ががんを予防することを示すものではありません。長命草の由来は言い伝えです。お酒は、20歳になってから。

TOGYU

島が熱くなる日。徳之島の闘牛。

牛と牛が、角を突き合わせて力を競う。闘牛は、人と牛、集落と集落が結びつく、結（ゆい）の精神の舞台でもあります。国内の闘牛文化の中でも、徳之島は「最も熱い」と言われます。



角を突き合わせる闘牛（闘牛場）



夕方、牛を連れて歩く人

金見の滞在に、闘牛を（構想）

大会の開催日にあわせた滞在や、牛の持ち主との出会いなど、闘牛を通じて島の文化にふれる体験を、滞在のプログラムに取り入れることを考えています。

年3回の全島大会

1月・5月・10月。徳之島・天城・伊仙の3つの町の協会が、持ち回りで主催します。

牛と、人の絆

闘牛の牛の世話をする人たちは、毎日、牛を世話し、育てます。夕方、牛を散歩させる姿は、島ではありふれた風景です。

闘牛にふれる体験

島の観光会社が、闘牛の日常にふれる半日のE-bikeツアーを企画しています（結や -MUSUBIYA-）。

日程や会場は年によって変わります。最新情報は、徳之島観光連盟などの公式情報でご確認ください。出典：徳之島観光連盟、結や -MUSUBIYA-（2024年時点）。

CONTACT

事業パートナー募集・お問い合わせ

金見の現地をご覧いただいたうえで、ともに具体化していきたいと考えています。事業パートナー候補の企業、金融機関、自治体の皆さまのご連絡をお待ちしています。

お問い合わせ先

メール：info@kanan-terrace.com
Web：https://kanan-terrace.com
概要資料のご請求、現地視察のご相談は、メールまたは公式サイトのフォームからお送りください。

ご相談の流れ

- 視察日程のご相談
- ヴィラ・土地・集落を巡る行程のご案内
- 集落の皆さまとの意見交換

事業の収支・資金計画・出資の構成などは、面談の中で、資料を用いて個別にご説明します。

出典・写真・図面の権利表示

- 画像（イメージ）・図面：構想段階のもの。設計は確定していません。
- 空中写真：国土地理院の地理院タイルを使用。位置は目安です。
- 写真（トライアスロンの大会ゲート）：CyberOyaji（CC BY-SA 4.0）。霧の天城岳：Asset utilitist（CC0）。アマミノクロウサギ：James Eaton（CC0）。
- 統計：厚生労働省、観光庁、日本政府観光局（JNTO）、鹿児島県観光統計、奄美群島島づくりプラン、各町の公表資料。
- 奄美トレイルの情報：鹿児島県「奄美トレイル」の公式情報。
- 「体験のイメージ」「他地域の事例」と表記した写真は、金見での完成予定ではありません。現況の写真は「改修前」のものです。

ご留意いただきたいこと

本資料は、KANAN Terrace Project の紹介です。宿泊のご予約・販売、およびお客様の募集は行っていません。内容は2026年時点の構想で、計画・仕様は今後変更となる場合があります。集落は住民の暮らしの場です。訪れる際は、静かにお過ごしいただき、私有地には立ち入らないでください。

© 2026 KANAN Terrace Project